

第 20 回通常総会

2014 年 3 月 19 日 (水)

言語処理学会

The Association for Natural Language Processing

第 20 回通常総会次第

日時 2014 年 3 月 19 日(水)13 時 10 分～14 時 10 分

会場 北海道大学 工学部 B1 棟 オープンホール

総会次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 2013 年度論文賞, 第 19 回年次大会優秀賞の表彰
4. 議長選出
5. 2013 年度事業報告
6. 2013 年度決算報告, 監査報告
7. 2014 年度事業計画 提案
8. 2014 年度予算計画 提案
9. 2014 年度評議員構成
10. 2014 年度役員構成
11. その他
12. 閉会

以上

2013 年度事業報告

1. 概要

言語処理学会の主要活動として論文誌「自然言語処理」の発行および年次大会の開催を計画通りに進めました。「自然言語処理」に関しては、通常号と共に特集号を企画・発行しました。

第 19 回年次大会は、2013 年 3 月 12 日(火)から 15 日(金)まで、名古屋大学で開催しました。初日のチュートリアル講演資料集の申し込みは 281 件、期間全体の参加者総数は 644 名で、例年通り活気ある大会となりました。

若手研究者への支援活動として、2013 年 9 月 2 日(月)から 3 日(火)に東京大学で開催された「NLP 若手の会第 8 回シンポジウム」を後援しました。

以下の会議を共催、協賛、後援いたしました。

- (1) 第 4 回産業日本語研究会・シンポジウム（共催）
東京大学 2013 年 3 月 1 日
- (2) Final Symposium on JST-ANS Binaural Active Audition for Humanoid Robots (協賛)
京都大学 2013 年 3 月 18 日
- (3) 第 8 回ロボット聴覚システム HARK 講習会（協賛）
京都大学 2013 年 3 月 19 日
- (4) 特定非営利活動法人セマンティック・コンピューティング研究開発機構 10 周年記念シンポジウム（後援）
東京大学 2013 年 6 月 26 日
- (5) 日本音響学会 第 130 回技術講習会（協賛）
東京大学 2013 年 10 月 31 日-11 月 1 日
- (6) ロボットは東大に入れるか 2013 成果報告会（後援）
国立情報学研究所 2013 年 11 月 23 日
- (7) 第 10 回ロボット聴覚システム HARK 講習会（協賛）
早稲田大学 2013 年 12 月 5 日

2. 会員現況

正会員	757 名 (-24)
学生会員	115 名 (-33)
賛助会員	10 組織 (-1), 11 口 (-1)
特殊購読会員	43 組織 (+1), 49 口 (±0)

(2013 年 12 月 31 日現在、増減は 2012 年 12 月 13 日との比較)

正会員、学生会員の数は前年との単純な比較はできませんが、両方あわせて 40 名程度減少していると推測されます。

3. 会誌の発行

- 20 卷 1 号(2013 年 3 月発行、通巻 88 号)
卷頭言、論文 1 編、技術資料 1 編、会告
- 20 卷 2 号(2013 年 6 月発行、通巻 89 号)
卷頭言、論文 9 編、会告
- 20 卷 3 号(2013 年 6 月発行、通巻 90 号)
卷頭言、論文 7 編、技術資料 1 編、会告
- 20 卷 4 号(2013 年 9 月発行、通巻 91 号)
卷頭言、論文 3 編、会告
- 20 卷 5 号(2013 年 12 月発行、通巻 92 号)
卷頭言、論文 5 編、会告

4. 第19回年次大会の開催

- ◇ 開催日: 2013年3月12日(火)～3月15日(金)
- ◇ 会場: 名古屋大学(名古屋市千種区不老町)
- ◇ プログラム
 - [チュートリアル講演](4件) 3月12日(火)
岡崎直觀 氏(東北大学), 吉永直樹 氏(東京大学), 工藤拓 氏(グーグル株式会社)
「言語処理研究におけるソフトウェアの開発と公開」
飯田龍 氏(東京工業大学)
「テキストアノテーション: 現状と今後の方向性」
齋藤洋典 氏(名古屋大学)
「言語処理の後先(あとさき): 意味はどこから来てどこへ行くのか」
梅谷俊治 氏(大阪大学)
「組合せ最適化入門: 線形計画から整数計画まで」

[招待講演]

- 一杉裕志 氏(産業技術総合研究所) 3月13日(水)
「人間の知能再現に向けて、大脳皮質の動作原理解明を目指しませんか?」
- 金水敏 氏(大阪大学) 3月14日(木)
「役割語研究の現在」

[招待論文講演] 3月14日(木)

- 鍛治伸裕 氏 「言い換えと逆翻字を用いた片仮名複合名詞の分割」
- 原島純 氏 「テキストの表層情報と潜在情報を利用した適合性フィードバック」
- 今村賢治 氏 「小規模誤りデータからの日本語学習者作文の助詞誤り訂正」

[一般発表 講演発表] 3月13日(水)～15日(金) 発表件数 98件

[一般発表 ポスター発表] 3月14日(木)～15日(金) 発表件数 128件

[併設ワークショップ] なし

- (1) チュートリアル
4件のチュートリアル講演をおこない、多数の聴講がありました。
- (2) テーマセッション
第11回大会から設けられているテーマセッションについては、今回は以下の3テーマを設けました。
 1. コーパスアノテーションの可能性と共有化: 9件
 2. 防災・減災・災害時における言語処理: 7件
 3. 医療における自然言語処理の資源とアプリケーションの整備に向けて: 4件いずれのセッションにおいても、活発な議論が交わされました。
- (3) 招待講演
産業技術総合研究所の一杉裕志氏と大阪大学の金水敏氏をお招きし、一杉氏には、「人間の知能再現に向けて、大脳皮質の動作原理解明を目指しませんか?」、金水氏には「役割語研究の現在」という題目でご講演いただきました。
- (4) ワークショップ
併設ワークショップには応募がなく、本年は開催されませんでした。

なお、今回から以下のような新しい試みを実施しました。

- (1) オープニングセッション
大会の開始を明確にするためにオープニングセッションを設け、発表の申し込み状況や会場に関する情報を提供しました。
- (2) 発表申し込みと論文投稿の一本化
従来、別々におこなっていた発表申し込みと予稿集論文投稿を一本化し、発表申し込みと同時に論文のカメラレディを投稿するようにしました。

(3) 口頭発表とポスター発表の比率の見直し

過去4年間、年次大会の発表件数が増加の一途をたどっており、前回は口頭発表を6セッション並列におこなって3日間でなんとかこなせる数でした。プログラムに余裕を持たせるために、今回はポスター発表の活用を積極的に呼びかけた結果、皆様のご理解・ご協力のおかげで昨年2:1であった口頭発表とポスター発表の比率が1:1になり、口頭発表のセッションの並列度を4に下げる事ができました。前回に比べると余裕があるプログラムになったのではないかと思います。

(4) 予稿集CD-ROMの廃止

従来、作成していたCD-ROMを今回から廃止し、事前に指定したURLから予稿集をダウンロードしていくことにしました。これによって、予稿集作成に必要な時間が短縮できると同時に経費も削減することができました。

(5) 招待論文講演

2012年度の優秀論文賞に選ばれた論文の第一著者を年次大会に招待し、受賞論文の内容について講演をお願いしました。

◇ 年次大会優秀賞・若手奨励賞

言語処理学会年次大会優秀賞は、年次大会において、論文の内容およびプレゼンテーションに優れたものと認められた発表論文に与えられる賞です。また、優秀賞のうち特に優れたものがあれば、最優秀賞として選定されます(言語処理学会年次大会 優秀賞規定)。同様に、若手奨励賞は、年次大会において、論文の内容およびプレゼンテーションに優れたものと認められた発表論文の発表者であり、かつ、以下の条件を満たす者に与えられる賞です(言語処理学会年次大会 若手奨励賞規定)。

- ・年次大会の開催年の4月1日において満30歳未満のもの
- ・講演者として登録かつ講演を行ったもの
- ・過去に優秀賞を受賞していないこと
- ・過去に若手奨励賞を受賞していないこと

昨年までは若手奨励賞の対象者がプログラムに明記されていないため、若手奨励賞の受賞資格の本人申請が必ずしも行われていない、座長以外は若手奨励賞の対象者が分からぬので一般参加者からの推薦が難しいという問題があり、今年は若手奨励賞の対象者をプログラムに明記することにしました。

大会賞の選考のための内規では「優秀賞の中で特に評価の高いものを0件から2件の範囲で最優秀賞とする。優秀賞は全発表件数の約2%を目安とする。若手奨励賞の受賞者は数件(上限は5件)」と規定されており、今大会でもこれに基づいて選定を進めました。今回の年次大会では246件の発表がありましたので、優秀賞の授賞件数は5件を目安としました。

前回大会に引き続き、少人数の選考委員会を組織し、慎重な議論を重ねた上で選定を行いました。各受賞論文には議論で合意された授賞理由が付記されます。また、責任を明確にするために、最終選考に関わる委員の名前を公表します。ただし、最終的な責任は委員長の徳永が負うものとします。

第19回言語処理学会年次大会優秀賞

■最優秀賞(1件)

A5-1 劣モジュラ最大化アルゴリズムを用いた文抽出と文圧縮に基づくクエリ指向要約

森田一(東工大), 笹野遼平, 高村大也, 奥村学(東工大)

■優秀賞(3件)

P3-11 オートエンコーダにおける単語ベクトルの学習

島岡聖世, 山本風人, 乾健太郎(東北大)

P6-4 談話レベルの推敲支援のための人手修正基準

飯田龍, 徳永健伸(東工大)

P1-6 Double-Arrayを利用した高速かつコンパクトなngram言語モデルの構築手法

安原誠, 田中透, 乗松潤矢, 山本幹雄(筑波大)

第19回言語処理学会年次大会若手奨励賞(5件)

B5-2 名詞句の内部構造を考慮したキーワードのスコア付け

村脇有吾, 黒橋禎夫(京大)

D2-5 聞き手の感情を喚起する発話応答生成

長谷川貴之(東大), 錛治伸裕, 吉永直樹, 豊田正史(東大)

P2-13 テキストアノテーションにおける視線と操作履歴の収集と分析

- 光田 航, 飯田 龍, 徳永 健伸 (東工大)
D2-2 “良い実況者”に着目した Twitter からのスポーツ速報生成
久保 光証, 笹野 遼平, 高村 大也, 奥村 学 (東工大)
C6-1 否定の焦点コーパスの構築と自動検出器の試作
大槻 諒 (山梨大), 松吉 俊, 福本 文代 (山梨大)

◇ まとめ

第 19 回年次大会は 246 件の口頭・ポスター発表がありました。発表数は前年度に比べて約 100 減と大幅な減少となりましたが、前年とほぼ同数の 644 名の参加者があり、例年どおり活気のある大会となりました。上述しましたとおり今回から新しい試みをいくつか実施しています。このような試みには功罪があると思いますが、会場での印象では概ね好評だったのではないかと思います。ご参加いただいた皆様、また直接大会の運営・企画にご尽力いただいた実行委員会、名古屋大学の関係者の皆様、プログラム委員会の皆様に厚くお礼を申し上げます。また、大会への協賛を 18 (前年比+10) 企業様より、それ以外に 16 (前年比+12) 企業様より広告によるご支援をいただきました。幅広いご支援に心より感謝します。

年次大会は本学会会員にとって極めて重要な情報発信・交換の場となっており、今後も会員みんなで育っていく必要があると思います。ご意見、ご批判、ご提案などありましたら、今大会あるいは次回大会のプログラム委員会、実行委員会にお寄せいただければ幸いです。

5. ニュースレターの発行

2013 年には、ニュースレター Vol.20 No.1 – No.3 の 3 号を発行し、学会運営、大会案内、大会優秀賞、論文賞などについて、会員への情報提供を行いました。これらのバックナンバーは学会ホームページでも公開しております。

6. 理事会の会議

計 5 回の理事会を開催し、入退会会員の承認、新任評議員の推薦、事業計画、予算、論文賞選考、学会誌査読方式、年次大会の方針、年次大会優秀賞、関連学会等への協賛等について審議し決定しました。また、会費納入や学会誌作成、ニュースレター発行等の学会運営についても議論しました。その他、余裕が生まれた活動資金を有効に利用する方法について議論しました。

理事会開催:

- 第 90 回 (2013 年 3 月 15 日, 名古屋大学)
第 91 回 (2013 年 5 月 30 日, 国立情報学研究所)
第 92 回 (2013 年 7 月 11 日, 国立情報学研究所)
第 93 回 (2013 年 9 月 19 日, 国立情報学研究所)
第 94 回 (2013 年 11 月 11 日, 国立情報学研究所)

7. 編集委員会

◇編集委員会の会議

2013 年中に 4 回の編集委員会を開催し、査読の公正性・客観性の改善、採否決定の一層の迅速化および論文誌の投稿促進に努めるため、下記の施策を実施いたしました。自然言語処理に掲載する論文の審議については、2012 年 7 月より原則一週間程度のメール審議とする運用に移行しました。2013 年 9 月には、任期満了となる編集委員 12 名の退任に伴い、新たに 12 名の編集委員が就任し、20 名の編集委員体制で編集業務に臨んでおります。

編集委員会開催:

- 第 85 回(2013 年 4 月 18 日, 国立情報学研究所)
第 86 回(2013 年 6 月 27 日, 国立情報学研究所)
第 87 回(2013 年 9 月 17 日, 国立情報学研究所)
第 88 回(2013 年 12 月 26 日, 国立情報学研究所)

● 別刷り費用削減キャンペーン

標記キャンペーンを継続し、2013 年 4 月～2014 年 3 月に採録された論文について別刷り費用の上限を論文のページ数にかかわらず一律 3 万円としました。

● 「原稿執筆案内」と「査読要領」への査読評価項目の明記

査読の評価項目である「会員の関心」、「信頼性」、「有用性」、「新規性」、「構成と読みやすさ」について、「原稿執筆案内」と「査読要領」に定義を含めて公開しました。特にコーパス構築やアノテーション関連の論文を適切に評価し、積極的な投稿を促すため、「新規性」については、従来想定されていた技術・手法による新規性に加えて、基準・設計方針についての議論や既存手法の適用結果の考察によって得られる新しい知見を新規性として再定義しました。

● ニュースレター企画記事：国際会議参加報告

会員サービスの一環として主要な国際会議への参加報告をニュースレターおよびWebで配信しています。今年度は以下の記事を配信しました。

Vol. 20 No. 1 「COLING 2012 参加報告」

Vol. 20 No. 3 「ACL 2013 参加報告」

● 英文校正サービスとコーパス化

2013年3月号以降の掲載論文について、27件の論文のタイトルと概要の英文校正ならびに4件の英文論文の本文の英文校正を実施しました。また、多数の著者の協力を得て、校正前の英文と校正後の英文を「言語処理学会英文校正コーパス」として管理し、会員の求めに応じて提供することにしました。

◇英文論文アーカイブ(IMT)への論文掲載

情報関連学会による国際的な電子ジャーナルとしてのIMT(Information and Media Technologies)の第8巻に英語論文2件を提供することとしました。

◇2013年度論文賞の選考

2012年の論文賞制度のリニューアルに基づき、2013年に出版された自然言語処理20巻1号から5号に掲載された論文25件から相応しい論文を推薦することを目標として、期間中の各号に掲載された論文のうち、査読点数が5点満点で4点以上の論文5件を対象に、以下の手続きで候補論文の選考を行いました。

- (1) 5件の論文を1から5の選択肢とし、選考対象論文の著者を除く編集委員の全員が、全論文を読んだ上で各自1票投票しました。投票は過半数の投票者で有効とし、100%の投票率を得ました。
- (2) 高得点を得た上位4件の論文を論文賞候補とし、うち最多得票数の論文1件を最優秀論文賞候補に推薦することに決しました。

(最優秀論文賞)

タイトル：「冗長性制約付きナップサック問題に基づく複数文書要約モデル」

著者：西川 仁、平尾 努、牧野 俊朗、松尾 義博、松本 裕治

発行号頁：Vol.20 No.4 pp.585-612

(論文賞)

タイトル：「画像検索を用いた語義別画像付き辞書の構築」

著者：藤田 早苗、平 博順、永田 昌明

発行号頁：Vol.20 No.2 pp.223-250

(論文賞)

タイトル：「Markov Logicによる日本語述語項構造解析」

著者：吉川 克正、浅原 正幸、松本 裕治

発行号頁：Vol.20 No.2 pp.251-271

(論文賞)

タイトル：「訂正パターンに基づく誤情報の収集と拡散状況の分析」

著者：鍋島 啓太、渡邊 研斗、水野 淳太、岡崎 直観、乾 健太郎

発行号頁：Vol.20 No.3 pp.461-484

◇自然言語処理の電子化

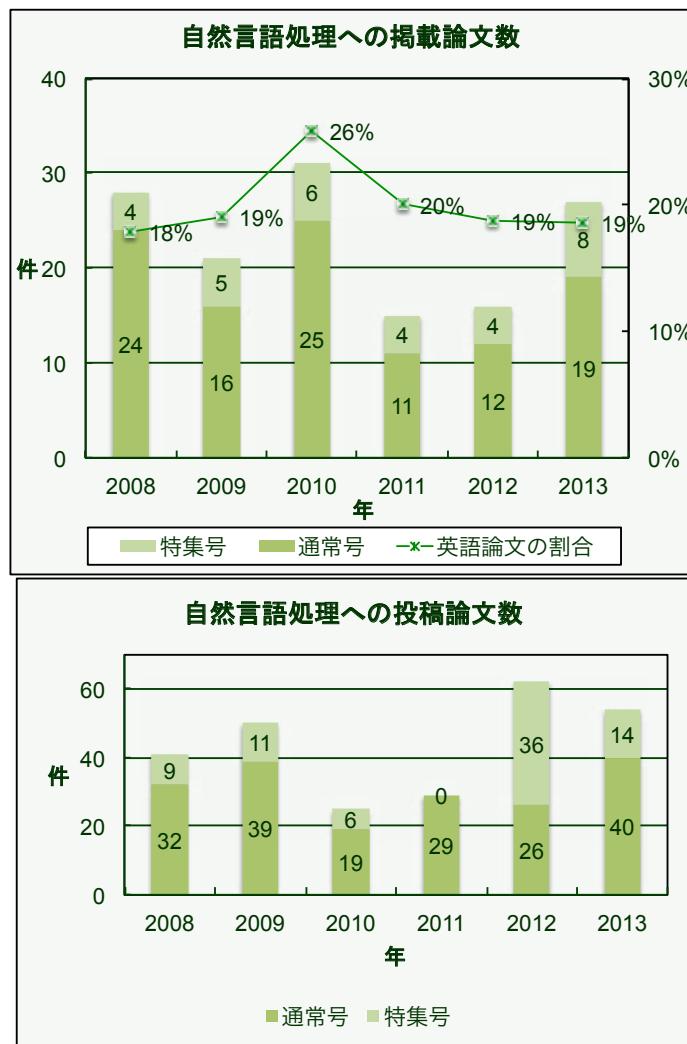
創刊号から2008年度までの本誌の全件が、JSTの電子アーカイブ事業により無償で電子化されJSTのサイトJournal@rchiveで公開されています。また、2009年度以降の本誌も、上記Journal@rchiveと一緒に運営されているJ-STAGEで公開されており、新規に出版されたものは三ヶ月後に電子化され公開されます。すなわち、現在、創刊号から、紙媒体で出版後三ヶ月経過した号まで、常時、電子的に閲覧可能となっております。

◇査読迅速化施策の効果

- 2012年からの迅速化
2013年は2012年と比較して、返戻の場合は変わりませんが、採録の場合で平均53日短縮化されています。
- 査読者への図書カード進呈施策による査読迅速化
昨年度よりも10%多い約90%の査読者が一ヶ月以内に査読を完了しています。

◇論文投稿・掲載数の増加

2013年は2012年と比較して、通常号への論文投稿数が14件、論文誌への掲載件数が11件増加し、論文誌の活性化が促進されました。



8. 活性化基金

特別会計「活性化基金」からの支出に基づき、本年度は次の5件の施策を実施しました。

(1) 学生会員の会費の割引

時限措置として、学生会員の会費(4000円)を半額(2000円)に割引しました。学生会員112名に適用しました。

(2) 論文誌別刷代の割引

2013年4月から2014年3月に採録された論文について論文誌の別刷代を一律3万円に割引する施策を実施しました。これまでに29編の論文に対して適用しました。

(3) 論文誌の活性化

掲載が決定した論文誌の英語論文および英語アブストラクトに対する英語校正を、希望者に対して無料で実施する施策を継続実施し、26編の論文に適用しました。この他に、論文誌を活性化するための一貫

として、論文賞に選定された論文を、年次大会に大会招待論文として招待する施策を開始しました。

(4) 年次大会のチュートリアルの無料化

年次大会のチュートリアルを、大会参加費のみで参加(聴講)できるようにしました。3月12日のチュートリアルには、238名の参加者がありました。

(5) 国際会議の支援

10月14日から18日にかけて名古屋で開催された IJCNLP-2013 に対して財政的支援を実施しました。

IJCNLP-2013 は、本学会がメンバーである Asian Federation of Natural Language Processing が主催する国際会議で、この規模の国際会議の日本開催は、ACL-2003 以来 10 年ぶりでした。本会議(発表 200 件)の他、ワークショップ 7 件、チュートリアル等が開催され、総計で 370 名の参加がありました。

なお、税理士の意見に基づき、特別会計「活性化基金」を廃止し、一般会計に含めることとなりました。一般会計の中で、どの部分が活性化基金からの支出分であるかは、今後も明記する予定です。

9. 20周年記念事業

本学会が 2014 年 4 月 1 日に 20 周年を迎えるにあたり、その記念事業を企画し、遂行しております。

2012 年 12 月には、理事会内に 20 周年記念事業委員会を立ち上げて、同事業の具体化の検討に入りました。構成員は、相澤、菊井、小原、白井、田口、隅田の各理事です。学会ウェブページ(http://www.anlp.jp/20th_anniversary.html)にて関連情報を周知しました。

現在までに以下の活動について、完了または着手しました。

(1) 【年次大会予稿集の公開】

白井理事を中心に、過去の年次大会の予稿集を学会ウェブページ上で公開しました。全ての発表論文の PDF を閲覧できるようになりました。(2013 年 7 月 1 日)

(2) 【言語処理学会論文誌 LaTeX コーパスの公開】

相澤理事、白井理事を中心に、会誌「自然言語処理」に掲載された論文の LaTeX ソースファイルを取りまとめ、学会ウェブページで公開しました。(2013 年 11 月 7 日)

(3) 【言語処理学会 20 周年記念特別セッション】

相澤理事、菊井理事を中心に、前記の年次大会予稿集のデータや論文誌のデータなどを活用した研究の促進に向けて、議論する場の第一弾として、言語処理学会第 20 回年次大会において特別セッションを企画しました。

(4) 【20 周年記念論文賞】

10 周年事業としておこないました 10 周年記念論文賞の授与にならい、学会誌「自然言語処理」の第 11 卷から第 20 卷(2004 年 3 月発行の 11 卷 1 号から 2013 年 12 月発行の 20 卷最終号)に掲載された論文の中から最優秀な論文を選出し、20 周年記念論文賞を授与する準備を進めています。

現在、徳永理事、相澤理事、隅田理事が理事会から指名を受け選考委員会を編成しました。選考委員長としてはこの 3 名の互選で徳永理事が指名されております。20 周年記念論文賞の選定委員として、30 人の会員(以下、敬称略: 荒牧英治、清田陽司、小林のぞみ、中野幹生、難波英嗣、榎井文人、乾健太郎、小原京子、新納浩幸、藤井敦、増市博、山口昌也、山本和英、金山博、東条敏、大石亨、工藤拓、加藤恒昭、村上明子、丸山岳彦、幡々野学、内山将夫、大塚裕子、斎藤博昭、宇津呂武仁、落谷亮、柏野和佳子、神門典子、永田昌明、村田真樹)に、就任いただいております。

選考手順は以下の通りです。

2013.8 下旬: 一次選考開始

2014.2 下旬: 一次選考締切

2014.3 中旬: 二次選考開始

2014.4 下旬: 二次選考締切

2014.6 中旬: 二次選考結果とりまとめ、候補論文の決定

2014.7 : 理事会承認

対象論文は 270 本で、一次選考では、各論文に対して 3 名の選考委員を割り当て(一人あたり 30 本程度)、この 10 年間の中で最優秀な論文として残る可能性があるかないかの二択で選択してもらう程度の粗い選考をおこないます。一次選考で候補に残った論文を 3 名程度で(ひとりあたり 3 本程度)査読し、その結果を総合的に判断して候補論文を決定する予定です。

(5) 【学会誌「自然言語処理」特集号『20 周年記念の論文賞論文コレクション』】

過去の論文賞受賞の論文(2001~2012)を英語化し、発行します。

- 1) 学会による宣伝方法として、少なくとも以下を実施します。
 - ・国際的なメーリングリストで J-STAGE の掲載情報を周知します。
 - ・ACL や COLING 等の国際会議や 20 周年記念シンポで概要を配布します。
- 2) 英文作成は、外注では品質が懸念されるので、著者にお願いします。
- 3) 専門業者に委託している英文校正サービスを適用します。
- 4) 論文賞受賞論文の再掲載なので、査読はなく校正のみとします。
- 5) 1ページ目に脚注「A 卷 B 号 pp.C-D の論文の翻訳である」と記載していただきます。
- 6) 著者の既刊英語論文の著作権に抵触するがないようにご留意いただきます。

スケジュールは以下の通りです。

2013 年 8 月	著者に可否の照会
～2014 年 2 月	著者による英文作成
3 月	編集委員会による校正
4 月	著者による最終原稿の提出作成
5～6 月	英文校正(業者と著者との編集委員会事務局経由のやり取り)
7～8 月	中西印刷で組版
9 月	印刷物を会員に送付
12 月	J-STAGE に UP

(6) 【言語処理学会 20 周年記念シンポジウム】

設立 20 周年記念シンポジウムを企画・実行するために、理事会から中川裕志教授(東京大学情報基盤センター)に依頼して、実行委員会を組織していただきました(実行委員長:中川裕志教授(東京大学情報基盤センター), 委員:鶴岡慶雅准教授(東京大学工学系研究科), 鍛治伸裕准教授(東京大学生産技術研究所), 相澤彰子教授(NII), 宮尾祐介准教授(NII))。

2014 年 9 月下旬または 10 月上旬の土曜日午後半日の開催を予定し, 200 名から 300 名程度の参加者を見込んでいます。実行委員会で検討の結果, 東大工学部 2 号館 213 号室東京大学本郷キャンパスで開催を計画することになりました。

プログラムは、挨拶→前記(4)の 20 周年記念論文の表彰+プレゼン→セッション→基調講演→交流会の順番で進めることとして、セッションや基調講演について、打診を進めました。

言語処理学会2013年度一般会計決算報告書
自 平成25年1月1日 至12月31日

勘定科目		予算金額(円)	決算金額(円)	備考
大科目	小科目			
収入科目	個人会費	6,240,000	8,312,000	正会員@8,000×728名 過年度分@8,000×311名
		300,000	532,000	学生会員@4,000×98名 過年度分@4,000×35名
	賛助会員	600,000	900,000	1口¥50,000×12口 過年度分¥50,000×6口
	特殊購読費	500,000	490,000	1口¥10,000×49口
	別刷り代	500,000	2,210,000	20巻1~5号
	第19回年次大会収入	4,400,000	4,882,668	※学会の活性化と会員サービス向上のための施策により、 チュートリアル無料化を実施（活性化事業費¥1,000,000）
	広告料	120,000	120,000	19巻4号～20巻4号
	雑誌頒布収入	100,000	112,000	
	雑収入	10,000	5,224	著作権使用料、受取利息
	小計	12,770,000	17,563,892	
	特別会計取り崩し (活性化基金)	5,300,000	15,097,300	決算書類簡素化のため、特別会計を一般会計へ戻す
	合計	18,070,000	32,661,192	
	前年度繰越支差額	15,056,070	15,056,070	
支出科目	収入合計	33,126,070	47,717,262	
	論文誌印刷配達費	3,000,000	3,612,981	20巻1号～6号 印刷費￥3,092,082/配送料￥520,899
	論文誌編集費	1,000,000	1,623,300	組版代
	編集委員会/会議費	900,000	783,691	会合費、旅費、査読謝礼（図書カード）
	編集事務局費	300,000	357,720	編集事務局謝金
	総務事務局費	60,000	92,050	総務事務局謝金
	業務委託費	1,900,500	1,953,000	中西印刷㈱委託費e-nafシステム料金を含む
	通信費	150,000	99,213	
	第19回年次大会開催費	5,400,000	4,822,742	
	年次大会運営サポート費	1,050,000	1,155,000	第19回向け作業（前年10月～3月）￥525,000 第20回向け作業（4月～9月）￥630,000
	特殊購読・雑誌頒布経費	250,000	254,143	特殊購読及び雑誌頒布事務手数料
	会誌電子化費用	100,000	127,050	20巻J-STAGEへのアップロード費用
	会費集金費	400,000	702,056	
	活性化事業費 国内開催の国際会議支援	2,000,000	1,000,000	名古屋開催のIJCNLP-2013を最大￥2,000,000補助 ※学会の活性化と会員サービス向上のための施策（2013年度）
	活性化事業費 論文誌の活性化	800,000	191,808	英語論文に対する英語校正無料サービス他 ※学会の活性化と会員サービス向上のための施策（2013年度）
	活性化事業費 20周年イベント準備	200,000	12,000	会合費、旅費他 ※学会の活性化と会員サービス向上のための施策（2013年度）
	活性化事業費 学生会員会費減免		224,000	学生会員@2,000×98名 過年度分@2,000×14名 ※学会の活性化と会員サービス向上のための施策（2013年度） 学生会員割引予算（￥300,000）
	活性化事業費 別刷り代減免		1,340,000	※学会の活性化と会員サービス向上のための施策（2013年度） 別刷代補助予算（￥1,000,000）
	諸経費	950,000	798,125	大会優秀賞関連費、ホームページ関連費用
	合計	18,460,500	19,148,879	
	次年度繰越支差額	14,665,570	28,568,383	
	支出合計	33,126,070	47,717,262	

注記) 活性化事業については、前期繰越 ￥15,097,300 から、今年度 ￥3,767,808 を取り崩し、
￥11,329,492を次期へ繰り越す。

言語処理学会2013年度特別会計決算報告書
自 平成25年1月1日 至12月31日

勘定科目		予算金額(円)	決算金額(円)	備考
大科目	小科目			
収入科目				
	合計	0	0	
	前年度繰越収支差額	15,097,300	15,097,300	
	収入合計	15,097,300	15,097,300	
支出科目	一般会計へ繰入	5,300,000	15,097,300	
	合計	5,300,000	15,097,300	
	次年度繰越収支差額	9,797,300	0	
	支出合計	15,097,300	15,097,300	

**言語処理学会
貸借対照表**
平成25年12月31日現在（単位：円）

借 方 (資 産)		貸方 (負 債)	
現金	38,634	前受正会員会費	3,352,000
銀行預金 I (三井住友銀行)	19,598,628	前受学生会員会費	124,000
銀行預金 II (三菱東京UFJ銀行)	10,257,788	前受賛助会員費	300,000
銀行預金 III (みずほ銀行)	14,627	次年度繰越金*1	28,568,383
銀行預金 IV (ゆうちょ銀行)	2,434,706		
合 計	32,344,383	合 計	32,344,383

*1 決算報告書の次年度繰越金と同額

言語処理学会2013年度一般会計決算報告書
自 平成25年1月1日 至12月31日

勘定科目		決算金額(円)	備考
大科目	小科目		
収入科目	個人会費	8,312,000	正会員@8,000×728名 過年度分@8,000×311名
		532,000	学生会員@4,000×98名 過年度分@4,000×35名
	賛助会員	900,000	1口¥50,000×12口 過年度分¥50,000×6口
	特殊購読費	490,000	1口¥10,000×49口
	別刷り代	2,210,000	20巻1~5号
	第19回年次大会収入	4,882,668	※学会の活性化と会員サービス向上のための施策により、チュートリアル無料化を実施 (活性化事業費¥1,000,000)
	広告料	120,000	19巻4号~20巻4号
	雑誌頒布収入	112,000	
	雑収入	5,224	著作権使用料、受取利息
	小計	17,563,892	
	特別会計取り崩し (活性化基金)	15,097,300	決算書類簡素化のため、特別会計を一般会計へ戻す
	合計	32,661,192	
	前年度繰越支差額	15,056,070	
	収入合計	47,717,262	
支出科目	論文誌印刷配達費	3,612,981	20巻1号~6号 印刷費¥3,092,082/配送料¥520,899
	論文誌編集費	1,623,300	組版代
	編集委員会/会議費	783,691	会合費、旅費、査読謝礼 (図書カード)
	編集事務局費	357,720	編集事務局謝金
	総務事務局費	92,050	総務事務局謝金
	業務委託費	1,953,000	中西印刷㈱委託費e-nafシステム料金を含む
	通信費	99,213	
	第19回年次大会開催費	4,822,742	
	年次大会運営サポート費	1,155,000	第19回向け作業 (前年10月~3月) ¥525,000 第20回向け作業 (4月~9月) ¥630,000
	特殊購読・雑誌頒布経費	254,143	特殊購読及び雑誌頒布事務手数料
	会誌電子化費用	127,050	20巻J-STAGEへのアップロード費用
	会費集金費	702,056	
	活性化事業費 国内開催の国際会議支援	1,000,000	名古屋開催のIJCNLP-2013を最大¥2,000,000補助 ※学会の活性化と会員サービス向上のための施策 (2013年度)
	活性化事業費 論文誌の活性化	191,808	英語論文に対する英語校正無料サービス他 ※学会の活性化と会員サービス向上のための施策 (2013年度)
	活性化事業費 20周年イベント準備	12,000	会合費、旅費他 ※学会の活性化と会員サービス向上のための施策 (2013年度)
	活性化事業費 学生会員会費減免	224,000	学生会員@2,000×98名 過年度分@2,000×14名 ※学会の活性化と会員サービス向上のための施策 (2013年度) 学生会員割引予算 (¥300,000)
	活性化事業費 別刷り代減免	1,340,000	※学会の活性化と会員サービス向上のための施策 (2013年度) 別刷代補助予算 (¥1,000,000)
	諸経費	798,125	大会優秀賞関連費、ホームページ関連費用
	合計	19,148,879	
	次年度繰越支差額	28,568,383	
	支出合計	47,717,262	

注記) 活性化事業については、前期繰越 ¥15,097,300 から、今年度 ¥3,767,808 を取り崩し、¥11,329,492を次期へ繰り越す。

●上記の通り報告いたします。

言語処理学会財務理事

田口 大悟

印

●監査の結果、上記の結果に相違ありません。

言語処理学会 監事

斎藤 博昭

印

言語処理学会 監事

浦谷 則好

印

2014年 2月 10日

言語処理学会2013年度特別会計決算報告書
自 平成25年1月1日 至12月31日

勘定科目		決算金額(円)	備考
大科目	小科目		
収入科目			
	合計	0	
	前年度繰越収支差額	15,097,300	
	収入合計	15,097,300	
支出科目	一般会計へ繰入	15,097,300	
	合計	15,097,300	
	次年度繰越収支差額	0	
	支出合計	15,097,300	

●上記の通り報告いたします。

言語処理学会財務理事

田口 大悟



●監査の結果、上記の結果に相違ありません。

言語処理学会 監事

斎藤 博昭



言語処理学会 監事

浦谷 則好



2014年 2月 10日

2014 年度事業計画

1. 運営・活動方針

言語処理学会の主要な活動として、論文誌「自然言語処理」を定期的に発行するほか、特集号の企画・発行を行い、年次大会を開催します。また、これらの論文誌や年次大会で発表された研究の内容を広く内外に流通させるとともに、会員の自然言語処理の研究発表を支援することも本学会の重要な役割と考え、活動を進めて参ります。

研究発表を支援する活動としては、昨年同様、若手の会が企画したシンポジウムの支援を行います。また、国際交流に関しては、今まで、特にアジア・太平洋地域の関連学会の連合組織 AFNLP の活動への協力を行ってきました。今年度も予算の許す範囲で、このような研究活動の支援を継続して実施します。

当学会では、収益の拡大と節約を旨とする皆様のご努力により、活動資金に余裕が生まれてきました。今後は、会費の引き下げや、年次大会におけるプログラム委員長および大会実行委員長の負荷軽減などについても検討し、収支のバランスのとれた学会運営を目指していく予定です。具体的な施策については、「6. 学会の活性化と会員サービス向上のための施策」で説明します。

2. 会誌の発行

- ・ 第 21 卷第 1 号 (2014 年 3 月中旬発行予定、通巻 93 号)
- ・ 第 21 卷第 2 号 (2014 年 4 月中旬発行予定、通巻 94 号)
- ・ 第 21 卷第 3 号 (2014 年 6 月中旬発行予定、通巻 95 号)
- ・ 第 21 卷第 4 号 (2014 年 9 月初旬発行予定、通巻 96 号)
- ・ 第 21 卷第 5 号 (2014 年 9 月中旬発行予定、通巻 97 号)
- ・ 第 21 卷第 6 号 (2014 年 12 月中旬発行予定、通巻 98 号)

第 2 号は「コーパスアノテーション」特集号、第 4 号は「20 周年記念」特集号を予定しています。

3. 第 20 回年次大会の開催

日時：2014 年 3 月 17 日(月)～3 月 21 日(金)

会場：北海道大学

3 月 17 日(月) チュートリアル (10:30～15:00)

3 月 18 日(火) 本会議 第 1 日 (9:00～18:30)

　オープニング (9:00～9:30)

　特別招待講演 (9:30～10:30)

3 月 19 日(水) 本会議 第 2 日 (8:30～17:30)

　招待論文 (10:10～12:10)

　総会 (13:10～14:10)

　懇親会 (19:00～21:00)

3 月 20 日(木) 本会議 第 3 日 (8:30～18:40)

　特別招待講演 (10:30～11:30)

　クロージング (18:10～18:40)

3 月 21 日(金) ワークショップ「自然言語処理の発展に向けた情報共有・討論」

4. ニュースレターの発行

原則として、前年と同様の回数と内容で発行する計画です。学会メーリングリストを通じて配布します。これらは学会ホームページにバックナンバーとして公開します。

5. 会議

◇総会

通常総会を 2014 年 3 月の年次大会で開催します。

◇理事会

昨年度同様に 6 回程度開催します。予算のゆとりを会員に還元する施策・事業、論文等の電子的公開、年次大会の開催、法人化の検討、他学会との連携などについて審議します。

◇評議員会

総会に合わせて 2014 年度第 1 回会合を開催します。学会全体の活動の活性化に向けた施策、関連する研究分野との交流の促進などについて議論します。

◇編集委員会

編集委員会は年 4 回開催しつつ、メールによって迅速な論文審査を目指して運営します。また、英文論文の増加施策や論文推薦制度など会誌をより活性化する手法を精力的に検討とともに、関連分野の研究者との連携を可能にするような発展を目指していきます。また、査読管理の電子ツールの導入の是非も検討を続けていきます。

6. 学会の活性化と会員サービス向上のための施策

一般会計のうち、「活性化基金」適用分として、次の施策を実施します。

(1) 学生会員の会費割引(予算 24 万円)

学生会員の会費(4000 円)を半額(2000 円)に割引する時限措置を本年度も継続します。

(2) 論文誌別刷代の割引(予算 135 万円)

論文誌の別刷代を一律 3 万円に割引することを継続します。

(3) 論文誌の活性化(予算:30 万円)

掲載が決定した論文誌の論文に対する無料の英語校正を継続して実施します。また、招待論文等、論文誌の活性化を検討します。

(4) 年次大会のチュートリアルの無料化

年次大会のチュートリアルを、大会参加費のみで参加(聴講)できるような施策を継続します。

7. 20 周年記念事業

本学会が 2014 年 4 月 1 日に 20 周年を迎えるにあたり、その記念事業を企画し、遂行します。2012 年 12 月には、理事会内に 20 周年記念事業委員会を立ち上げて、同事業の具体化の検討に入りました。構成員は、相澤、菊井、小原、白井、田口、隅田の各理事です。20 周年記念事業委員会では、皆様からの記念事業に関するアイデア・ご意見をお待ちしています(連絡先:20th-anniversary@anlp.jp)。また、学会ウェブページ(http://www.anlp.jp/20th_anniversary.html)にて関連情報を周知します。

20 周年記念事業として以下の活動を推進します。

(1) 【言語処理学会 20 周年記念招待講演】

言語処理学会第 20 回年次大会において下記の招待講演を実施します。

- 講演者:長尾 真氏(京都大学名誉教授)

➤ 題目:NLP の過去、現在、将来

- 講演者:辻井 潤一氏(Principal Researcher, Microsoft Research Asia)

➤ 題目:言語処理における特殊と普遍—日本の研究と世界の研究

(2) 【言語処理学会 20 周年記念特別セッション】

昨年より公開を開始した年次大会予稿集のデータや論文誌のデータなどを活用した研究の促進に向けて、議論する場の第一弾として、言語処理学会第 20 回年次大会において特別セッションを実施します。

(3) 【20 周年記念論文賞】

10 周年事業としておこないました 10 周年記念論文賞の授与にならい、学会誌「自然言語処理」の第 11 卷から第 20 卷(2004 年 3 月発行の 11 卷 1 号から 2013 年 12 月発行の 20 卷最終号)に掲載された論文の中から最優秀な論文を選出し、20 周年記念論文賞を授与します。選考委員会(徳永選考委員長)の下、選考作業を行い、2014 年 7 月に決定の予定です。

(4) 【学会誌「自然言語処理」特集号「20 周年記念の論文賞論文コレクション】

学会誌「自然言語処理」の日本語コンテンツを海外に紹介する目的で、過去の論文賞受賞の論文(2001~2012)を英語化し、発行します。著者と編集委員会の協力の下で発行の準備を進め、9 月に印刷物を会員に送付、12 月に PDF を J-STAGE に UP の予定です。

(5) 【言語処理学会 20 周年記念シンポジウム】

設立 20 周年記念シンポジウムを開催します。実行委員会(実行委員長:中川裕志教授(東京大学情報基盤センター)、委員:鶴岡慶雅准教授(東京大学工学系研究科)、鍛治伸裕准教授(東京大学生産技術研究所)、相澤彰子教授(NII)、宮尾祐介准教授(NII))を中心に準備を進めます。

2014 年 9 月下旬または 10 月上旬の土曜日午後半日の開催を予定し、200 名から 300 名程度の参加者を見込んでいます。実行委員会で検討の結果、東大工学部 2 号館 213 号室東京大学本郷キャンパスでの

開催を計画しています。

プログラムは、挨拶→前記の 20 周年記念論文の表彰+プレゼン→セッション→基調講演→交流会の順番で進めることとして、セッションや基調講演について、打診を進めています。

8. 学会の法人化の準備

昨年度の理事会で、言語処理学会の法人化についての検討を行い、2015 年度の言語処理学会の一般社団法人化を目指して活動を推進することが議決されました。2014 年度は、定款の作成等の法人化の準備を進める予定です。定款の作成、設立時社員・理事の決定等、一般社団法人化に必要なプロセスの理事会一任を提案しますので、評議員・会員の皆様のご承諾をお願いします。

◇背景／経緯

2008 年 12 月に施行された「新公益法人法」を契機として、多くの学会で法人化に関する検討が行われるようになりました。言語処理学会の理事会においても、法人化の検討を行い、以下のメリットがデメリットを上回ると判断し、2015 年度の一般社団法人化に向けて活動を行うことが議決されました。

【法人化のメリット】

- (1) 社会的信用が高まります。法に定められた法人として運営することにより、組織の基礎がしっかりとし、任意団体と比べて社会的信用が増します。
- (2) 学会名で法律行為(契約、雇用、売買、貸借)が行えるようになります。任意団体では対外的な契約を学会長個人名で行わなければなりません。法人化すれば、責任が会長から理事に分散し、学会が行う行為や構成員の責任・義務が法的に明確な状態で運営されることになります。
- (3) 税理士のチェックによる透明性の高い会計処理を行うことになり、税務リスクが低減します。

【法人化のデメリット】

- (1) 法人の法的要件を満たすため、定款作成、役員登記、税務処理など、学会の運営に必要な労力および経費(事務委託費用・税理士費用・司法書士費用等)が増加します。

◇法人化による変化

言語処理学会の設立の目的を尊重し、定款は、現在の学会会則に沿って作成することとし、現状の学会会則からの変更は、一般社団法人化に必要な最小限に留めます。このため、学会の目的や、論文誌の発行や年次大会の開催等の学会が行う事業については法人化による変更ではなく、会員はこれまでと同じメリットを受けることができます。一方で、理事選挙、総会における議決の条件などの学会の運営方法に関しては、法人の法的要件に従って、変更する必要があります。

◇スケジュール

今後のスケジュールについては、以下を予定しています。

【2014/04～2015/02】

理事会で、定款の作成、設立時社員・理事の調整等の一般社団法人化のための準備を行います。

【2015/03 の評議員会・総会】

定款や設立時の社員・理事等について、評議員・会員へ説明し、一般社団法人化の最終承認をとります。

【2015/04～】

公証人による認証と司法書士による登記を行い、一般社団法人に移行します。

言語処理学会 収支予算書（案）

2014年 1月 1日から2014年12月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	備考
1. 経常増減の部		
(1) 経常収益		
受取会費	[7,970,000]	
正会員受取会費	(6,400,000)	
正会員当年度	5,600,000	@8,000円×700名
正会員過年度	800,000	@8,000円×100名
学生会員受取会費	(480,000)	
学生会員当年度	400,000	@4,000円×100名
学生会員過年度	80,000	@4,000円×20名
賛助会員受取会費	(600,000)	
賛助会員当年度	600,000	1口50,000円×12口
賛助会員過年度	0	
特殊購読会員受取会費	(490,000)	1口50,000円×49口 特殊購読費から変更
490,000		
事業収益	[7,530,000]	
学術研究事業(年次大会)	(5,330,000)	
年次大会参加費	2,680,000	
年次大会懇親会費	860,000	
年次大会協賛・広告	1,790,000	
年次大会助成・補助	0	
年次大会雑収入	0	
普及啓発事業(HP・刊行物等)	(2,200,000)	
論文誌広告料	100,000	20巻5号～21巻5号
別刷代	2,000,000	21巻1号～3号、5号～6号。4号は「20周年記念」特集号で別刷代はなし
雑誌領布収入	100,000	
雑収益	[5,000]	
受取利息	5,000	
雑収益	0	
経常収益計	15,505,000	
(2) 経常費用		
事業費	[23,630,380]	
年次大会開催費	(7,240,380)	
年次大会運営サポート費	1,260,000	第20回作業(前年10～3月)630,000円、第21回作業(4月～9月)630,000円
受付代行費	927,150	
資料作成費(印刷費)	278,700	
コンファレンスパック代	163,800	
プログラム委員会費	220,000	
年次大会会場費	1,293,050	
年次大会人件費	850,000	主に学生アルバイト
年次大会講師謝金等	240,000	
論文賞招待旅費	20,730	
評議員会等会議費	60,000	
表彰関係費	650,000	今年度のみ年次大会の表彰は2年分(+200,000円)
年次大会懇親会費	1,176,950	
実施委員会費	50,000	
年次大会雑費	50,000	
普及啓発事業(HP・刊行物等)	(6,850,000)	
論文誌印刷費	3,000,000	21巻1号～3号、5号～6号。4号は「20周年記念」特集号で別枠で計上
論文誌通信運搬費	600,000	21巻1号～3号、5号～6号。4号は「20周年記念」特集号で別枠で計上
論文誌編集費	1,600,000	21巻1号～3号、5号～6号。4号は「20周年記念」特集号で別枠で計上
論文誌電子化費用	100,000	21巻1号～3号、5号～6号。4号は「20周年記念」特集号で別枠で計上
編集委員会費	900,000	会合費、旅費、他
編集事務局費	400,000	編集事務局給与・旅費
特殊購読・雑誌領布経費	250,000	
活性化事業費	(9,540,000)	
一般社団法人化準備費	200,000	一般社団法人化準備、20周年事業、学会の活性化と会員サービス向上のための施策
20周年記念事業(過去の予稿集・論文の公開)	450,000	WGの会合費等
20周年記念事業(年次大会:記念招待講演)	400,000	年次大会予稿集の電子化(413,779円)等
20周年記念事業(20周年記念論文賞)	300,000	講演謝金、旅費
20周年記念事業(学会誌 特集号)	4,300,000	賞金、賞状の印刷、受賞者の表彰式の交通費
20周年記念事業(記念シンポジウム)	2,000,000	特集号「20周年記念の論文賞論文コレクション』英文校正(120万円)、印刷費・通信運搬費・編集費・電子化費用(260万円)、シンポジウム会場で配る梗概の印刷費(50万円)
論文誌の活性化費	300,000	会場費(レンタル、コーヒーブレーク等)、講演関連費等
学生会員費減免	240,000	英語論文に対する英語校正無料サービス他
別刷り代減免	1,350,000	2,000円×120名
管理費	[3,415,000]	
総務事務局費	(110,000)	総務事務局給与・旅費
業務委託費	(2,390,000)	
学会事務委託費	2,150,000	中西印刷(株)委託費 税務補助業務20万を追加
税理士報酬	240,000	契約書 第3条1項20,000円×12月税抜き 2項100,000円+4項20,000円は次期に計上
司法書士報酬	0	
会費集金費	(400,000)	
通信運搬費	(150,000)	
租税公課	(0)	
振込手数料	(15,000)	
HP関連経費	(100,000)	
雜費	(250,000)	評議員選挙関連費用、封筒代、IMT分担金等
経常費用計	27,045,380	
当期経常収支差額	-11,540,380	
2. 経常外増減の部		
(1) 経常外収益	0	
経常外収益計	0	
(2) 経常外費用	0	
経常外費用計	0	
当期経常外収支差額	0	
当期収支差額	-11,540,380	
前年度繰越収支差額	28,568,383	
次年度繰越収支差額	17,028,003	

2014 年度評議員構成

2012－2015 年度評議員		2014－2017 年度評議員	
奥村 学	東京工業大学	秋葉 友良	豊橋技術科学大学
江原 晉将	山梨英和大学	石川 開	NEC
青野 雅樹	豊橋技術科学大学	内山 将夫	情報通信研究機構
竹内 和広	大阪電気通信大学	大熊 智子	富士ゼロックス
井形 伸之	富士通株式会社	渋木 英潔	横浜国立大学
延澤 志保	東京都市大学	建石 由佳	国立情報学研究所
下畠 さより	沖電気工業株式会社	塚田 元	NTT
木戸 冬子	東京大学	坪井 祐太	日本アイ・ビー・エム株式会社
鈴木 久美	マイクロソフト	鶴岡 慶雅	東京大学
宮尾 祐介	国立情報学研究所	徳久 雅人	鳥取大学
野本 忠司	国文学研究資料館	丸山 岳彦	国立国語研究所
岩山 真	株式会社日立製作所	森 信介	京都大学
松尾 義博	日本電信電話株式会社	森元 巍	福岡大学
木下 聰	株式会社東芝	山口 昌也	国立国語研究所
橋本 力	情報通信研究機構	吉田 稔	徳島大学
賀沢 秀人	Google	吉村 賢治	福岡大学
		ジェプカ ラファウ	北海道大学
計16名		計17名	

2014 年度役員構成

役員名	氏名	所属
会長*	隅田 英一郎	情報通信研究機構
副会長(総編集長兼務)*	徳永 健伸	東京工業大学
編集委員長*	佐藤 理史	名古屋大学
理事(編集担当)	山崎 誠	国立国語研究所
理事(編集担当)	相澤 彰子	国立情報学研究所
理事(編集担当)*	田中 久美子	九州大学
理事(事業担当)	菊井 玄一郎	岡山県立大学
理事(事業担当)*	加藤 恒昭	東京大学
理事(事業/涉外担当)*	渡辺 日出雄	日本 IBM
理事(涉外担当)	関根 聰	ニューヨーク大学/楽天株式会社
理事(涉外担当)	小原 京子	慶應義塾大学
理事(財務担当)	赤峯 享	日本電気株式会社
理事(財務担当)*	永田 昌明	日本電信電話株式会社
理事(総務担当)*	河原 大輔	京都大学
理事(総務担当)	白井 清昭	北陸先端科学技術大学院大学
		(以上 15 名)
監事	浦谷 則好	東京工芸大学
監事*	田口 大悟	NEC システムテクノロジー株式会社
		(以上 2 名)
顧問	長尾 真	京都大学名誉教授
顧問	飯田 仁	東京工科大学
顧問	辻井 潤一	マイクロソフトリサーチアジア
顧問	島津 明	北陸先端科学技術大学院大学
顧問	中川 裕志	東京大学
顧問	石崎 俊	慶應義塾大学
顧問	橋田 浩一	東京大学
顧問*	中岩 浩巳	日本電信電話株式会社
		(以上 8 名)

会誌編集委員会 2014–2015 年度		
総編集長*	徳永 健伸	東京工業大学
編集委員長*	佐藤 理史	名古屋大学

*は新任.